映画と風車が出会ったら

オグマナオト

風車を親になぞらえて～『チョコレート・ファイター』

　ずっと同じ場所で、脇目もふらず、黙々と働き続ける。大人になってからマジマジと風車を見たとき、「なんか、うちの親みたいだな」と思った。親に反発する程、何かにつけて親を連想してしまうのは人間の性だろうか？　タイ映画『チョコレート・ファイター』を見たときにも「親」を感じてしまった。この映画は「親子愛」の物語である。少なくとも私にはそう思えた。

　スタント・ワイヤー・CGなし！で有名になった『マッハ!!!!!!!!!』の製作スタッフの映画。と言えば派手なアクションシーンを期待せずにはいられないが、果たして、この映画でも思わず笑ってしまうくらい、痛快・豪快な格闘シーンが描かれる。ヒロインの美少女が次々と大男をなぎ倒していく姿だけでも一見の価値があるだろう。

　しかし、この少女の生きる姿は笑えない。私が強烈に印象に残ったのは、生活の描写だけでなく格闘シーンにおいても常に泣きそうな少女の顔である。敵をなぎ倒しながらも顔は悲壮感を漂わせていた。自閉症というバックボーンを持つヒロインは、母親に依存して生きている。そんな少女が母親のためにマフィアとの戦いを続ける、不器用で真っすぐな姿勢が熱く胸を打つのだ。

　母に依存し、母のために戦い、結果として母を失った少女は、最後に日本人の父親と新たな人生を歩みだす。ラストシーンの舞台は北九州にある響灘風力発電所。ここは１０基の風車が２㎞に渡って一直線に並ぶ美しさが特徴だ。同じ方向を見つめる風車の先にあるのはどんな未来なのか？　つらくとも止まること無く、風車の羽の様に人生は回り続ける。どっしりと居を構え見守ってくれていた母の代わりに、今度は父が見守ってくれる。それまで終始暗いトーンで描かれていたこの映画の中において、雲ひとつない青空の下、風車に向かって歩き出す二人の姿が印象的だ。自分もこんな風に見守られていたんだろうかと、また親のことを思い出してしまった。

もう一度見たい映画と風車～『マック』

　たまに無性に食べたくなるもの。マックポテトとコーラのコンボ。家人からは体に悪いから控えるように怒られるが、禁止されるとむしろもっと食べたくなる。同様に、絶版になったりしてもう見ることが出来ない作品も、むしろ無性に見たくなるものだ。1988年に制作された映画『マック』もそんな作品のひとつである。

　この映画、好きな人には申し訳ないが、かなりの「トンデモ映画」だ。マクドナルド全面協賛のもと、地球に迷い込んだ宇宙人マックと、その宇宙人を大人から守る少年との心温まるヒューマンストーリーという、見事に『E.T.』をパクった内容にまず驚かされる（宇宙人の容姿そのものや指先が光る設定がもうソックリ！）。その年一番の最低な映画に贈られるゴールデンラズベリー賞ノミネートと、実績的にも十分なトンデモ映画である。都内のレンタルショップを何軒も訪ね歩いたがどこにも取り扱いは無く、制作した映画会社MGM自身が「そんな作品知りません」とばかりに公式サイトから情報を削除していることから、今後のDVD化も期待出来ないだろう。だが、たまにどうしても見たくなってしまうのだ。その理由は、この映画に出てくる美しい風車をもう一度見てみたいから。

　物語の終盤、山間にある風車に行く必要がある宇宙人マックは、そのことを伝えるためにストローで風車（かざぐるま）を作って少年に訴える。その健気なコミュニケーションと、その後に出現する美しい風車のコンボは、もはや幻の名シーンである。思い返せば、私が風車の魅力に取り付かれたのはこの映画がキッカケだったのではないだろうか。

　大人になった今、「でもあれってマクドナルド協賛だから、そのストローを使う必要があったんだろうな」などと色々邪推してしまう、汚れてしまった自分にこそ一番見て欲しい映画だ。宇宙人と少年の言葉を超えた友情を見て、心を洗い流してもらいたい。

トムと風車の不思議な関係～『レインマン』『M:I:3』

　１０月６日は「トム・クルーズの日」。数日前、芸能ニュースでこの話を聞いたとき、何のことかわからず一瞬思考が停止してしまった。アメリカでの話ではない。日本記念日協会にも認定された、日本でだけの記念日である。何でも『ミッション・インポッシブル３（M:I:3）』が公開された２００６年１０月、日本での公開記念とト（１０）ム（６）とを掛けて配給会社が記念日に申請し、認定されてしまったらしい。日本の暦にまで影響力を持つ男、トム・クルーズ。偉大な男である。

　そんな偉大なトムと、二度に渡って共演を果たした偉大な風車がある。カリフォルニア州パームスプリングスにある、世界でも有数の風車群だ。実はアメリカは世界１位の風車大国であり、その多くがカリフォルニア州に集中する。中でもここパームスプリングスには４０００基もの風車が集まり、映画だけでなくCMなどのロケ地としても人気を博している。

　トムとこの風車群の初共演は１９８８年。アカデミー賞も受賞した名作『レインマン』においてだ。映画の冒頭、父の死を知ったトムが土煙を上げながら車をUターンさせるシーンで、アメリカらしい赤土の上に並ぶ白い風車群が登場する。そしてもうひとつは、前述した『M:I:3』。敵組織に捕われた部下を救うためにヘリコプターでの激しい空中戦を演じたのが、ここパームスプリングスだ（舞台設定上はベルリン）。

　どちらの映画も風車が出てくるシーンはさほど長くないが、そこから物語が大きく動き出す場面であり、映画の中で重要なターニングポイントとなっている。１８年の時を経て、同じ場所でどう違った演技をするのか？　今年も来日したトムを見て「相変わらず若々しいな」と思ったが、定点で見比べると色々な違いが見えてくるものだ。変わらず回り続けた風車と、トップ俳優として走り続けたトム。よりエネルギーを生み出してきたのはどちらだろうか？